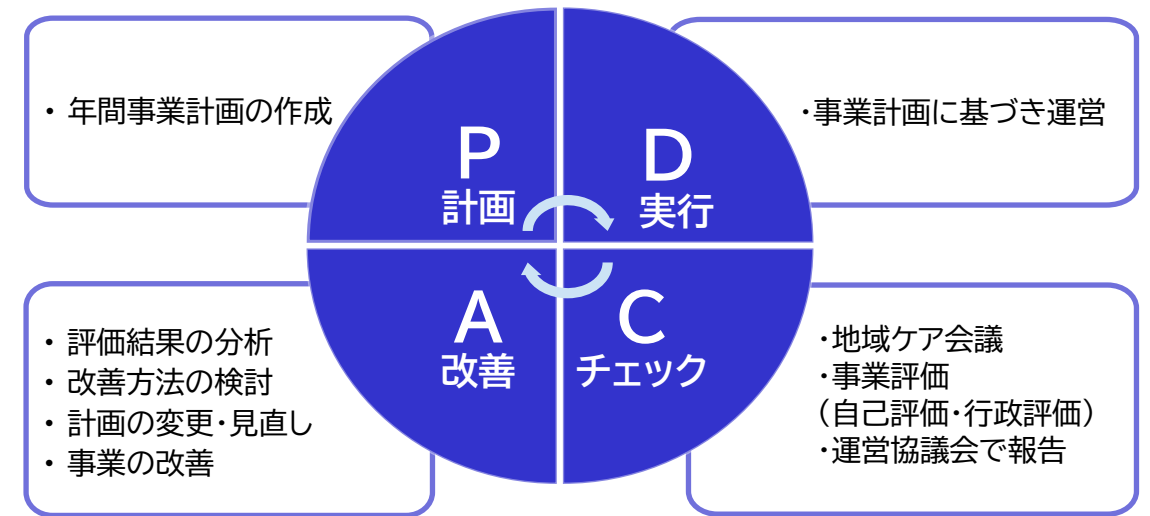
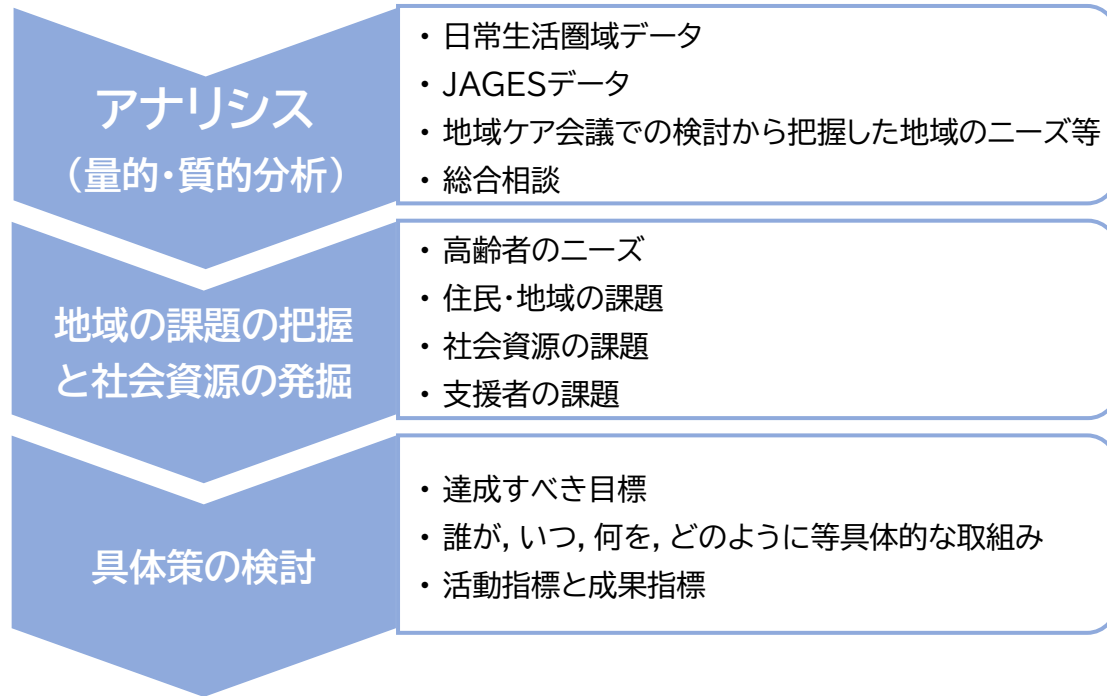


令和8年度 柏市地域包括支援センター事業計画について

令和8年7月16日
柏市地域包括支援課

地域包括支援センターのPDCAサイクル



令和8年度 地域包括支援センターの事業計画について

【センター共通の基本業務】

・日常生活圏域データ, JAGESデータ, 総合相談, 地域ケア会議等において検討された地域課題等, さまざまな角度から分析し, 地域特性を反映した運営を行います。

・運営に当たっては, これらの分析を踏まえた上でPDCAサイクルに基づき実施するとともに, 地域包括支援センター運営協議会において, 継続的な評価, 点検を実施していきます。

【各センターにおける重点事項】

各センターが地域分析に基づき, 地域課題解決に向け特に積極的に取り組んでいくものです。

令和8年度 柏北部地域包括支援センター 事業計画書 兼 実績報告書

●職員体制(令和8年4月1日現在)

常勤職員 : 保健師 1名, 社会福祉士 3名, 主任介護支援専門員 2名
非常勤職員: プランナー 4名, 事務員 1名

●所管圏域データ(令和7年10月1日現在)

所管圏域	人口 (人)	高齢者数 (人)	高齢化率 (%)	世帯数 (世帯)	高齢者 単身世帯数 (世帯)	高齢者のみ 世帯数 (世帯)	要支援者・ 事業対象者数 (人)	要介護 認定率 (%)	認知症者数 (人)
田中地域	49,501	9,224	18.64	21,718	2,333	4,381	506	16.3	751

●センター運営について

事業計画を共有し取組内容を確認, チームアプローチ推進, 全ての職員が研修を受けられる体制構築

●第9期いきいきプラン21における課題

団塊ジュニア世代が65歳以上となり高齢者が急増する一方, 生産年齢人口が急減する2040年への対応が必要とされている。

●前年度の事業評価の課題とその対応策

前年度の事業評価課題	課題への対応策
—	—

●前年度の重点活動

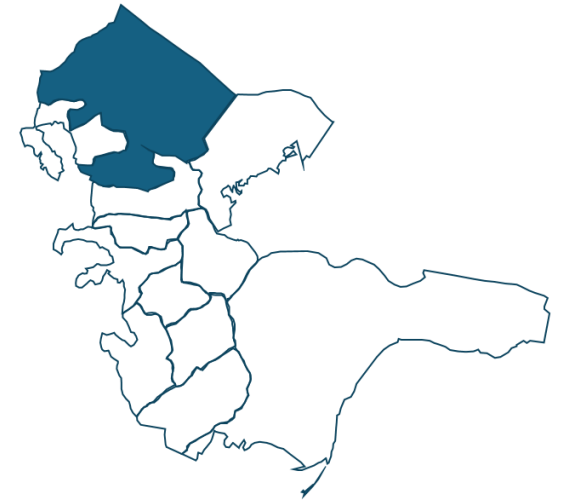
前年度の重点活動達成状況	必要な業務改善
—	—

1.重点活動(柏北部)

地域課題 (=目標設定の根拠)	・地域面積が広いため, 地域差が生まれている。 ・サロン等が活発でない地域が多い。 ・交通の便が悪く, 地域の住民が取り残されている。
目標	居住地問わず, 地域住民が参加できるような交流の機会を作る。
対象	目標達成のための取組
地域住民	・ほくほく出張キャラバン(包括内イベントや講座等をサロン等で開催)の実施 ・開催内容をリスト化する。
ケアマネジャー, 民生委員	取り組みの周知(ほくほく出張キャラバン・サロン等での開催周知)

●年度末記載

今年度の達成状況	必要な業務改善



令和8年度 柏北部第2地域包括支援センター 事業計画書 兼 実績報告書

●職員体制(令和8年4月1日現在)

常勤職員 : 保健師 4名 , 社会福祉士 1名, 主任介護支援専門員 1名(複数圏域合算)

非常勤職員: プランナー 1名, 事務員 1名

●所管圏域データ(令和7年10月1日現在)

所管圏域	人口 (人)	高齢者数 (人)	高齢化率 (%)	世帯数 (世帯)	高齢者 単身世帯数 (世帯)	高齢者のみ 世帯数 (世帯)	要支援者・ 事業対象者数 (人)	要介護 認定率 (%)	認知症者数 (人)
柏の葉地域	10,956	1,928	17.60	4,553	370	916	90	12.3	107
西原地域	17,614	5,376	30.53	8,491	1,479	2,701	321	19.6	564

●センター運営について

事業計画を共有し取組内容を確認, チームアプローチ推進, 全ての職員が研修を受けられる体制構築

●第9期いきいきプラン21における課題

団塊ジュニア世代が65歳以上となり高齢者が急増する一方, 生産年齢人口が急減する2040年への対応が必要とされている。

●前年度の事業評価の課題とその対応策

前年度の事業評価課題	課題への対応策
—	—

●前年度の重点活動

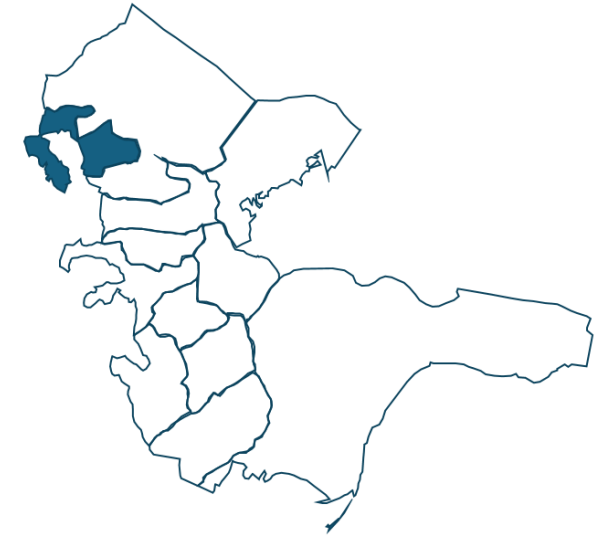
前年度の重点活動達成状況	必要な業務改善
—	—

1.重点活動(北部第2)

地域課題 (=目標設定の根拠)	年々独居や高齢者世帯の増加に伴い, 地域での支えあいの重要性が高まっている。
目標	高齢者の社会参加推進と孤立防止を図るため, 地域の強みや実情に応じた情報共有を関係機関と行い, 連携を強化する。
対象	目標達成のための取組
西原・柏の葉 地域住民, 民生委員, ケアマネジャー	生活支援体制整備事業を通して生活支援コーディネーターとの協議の実施, 協議体と協働して地域活動を促進する。 ケアマネジャー・民生委員へ交流会等で生活支援体制整備事業について周知し, 対象者の把握に努める。(新規目標:5件)
西原・柏の葉 地域住民	両地区の支えあい会議(ふるさと協議会・地区社協・助け合い団体を含む)等 に出席し, 地域包括支援センターの相談内容の傾向から地域課題につながる 情報提供を行い, 共有・連携を図り, ネットワーク構築を行う。また, 地域の困 りごとや今後の在り方などをヒアリングし支援していく。

● 年度末記載

今年度の達成状況	必要な業務改善



令和8年度 北柏地域包括支援センター 事業計画書 兼 実績報告書

●職員体制(令和8年4月1日現在)

常勤職員 : 保健師 1名 , 社会福祉士 2名, 主任ケアマネジャー 2名

非常勤職員: プランナー 4名, 事務員 1名

●所管圏域データ(令和7年10月1日現在)

所管圏域	人口 (人)	高齢者数 (人)	高齢化率(%)	世帯数 (世帯)	高齢者 単身世帯数 (世帯)	高齢者のみ 世帯数 (世帯)	要支援者・ 事業対象者数 (人)	要介護 認定率 (%)	認知症者数 (人)
富勢地域	24,227	7,510	31.0	12,743	2,207	3,759	464	19.2	734

●センター運営について

事業計画を共有し取組内容を確認, チームアプローチ推進, 全ての職員が研修を受けられる体制構築

●第9期いきいきプラン21における課題

団塊ジュニア世代が65歳以上となり高齢者が急増する一方, 生産年齢人口が急減する2040年への対応が必要とされている。

●前年度の事業評価の課題とその対応策

前年度の事業評価課題	課題への対応策
—	—

●前年度の重点活動

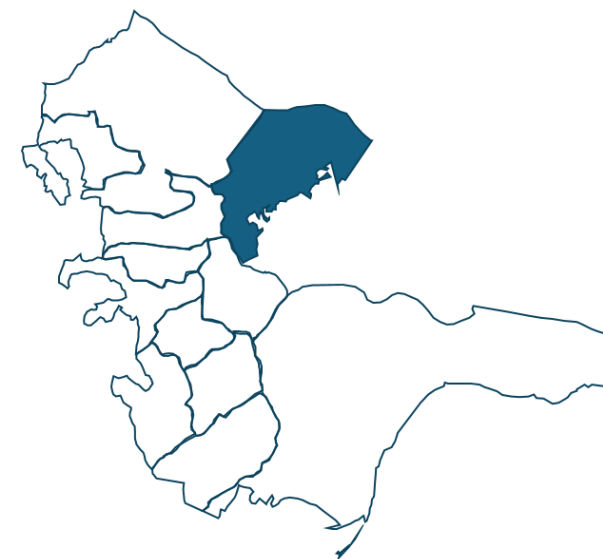
前年度の重点活動達成状況	必要な業務改善
—	—

1.重点活動(北柏)

地域課題 (=目標設定の根拠)	独居高齢者が増加しており認知症リスク, 要支援・要介護リスクが高い。
目標	独居高齢者が自立した生活ができるよう住民, 関係機関と連携をとりながら支援する。
対象	目標達成のための取組
地域住民	北柏地域包括支援センターの周知を「ふるさと富勢」に掲載していただき, 地域のサロンなど高齢者が集まる場所での出前相談会などの機会を通じて行う。
ケアマネジャー, 介護サービス 事業所, 医療機関	・ケアマネジャー, 介護サービス事業所, 医療機関と地域課題を共有し, 地域の高齢者の見守り体制のための意見交換の場を設ける。 ・ケアマネジャーとフレイル予防効果のデータや基本チェックリスト分析結果, 成功事例などを共有し, 高齢者の社会参加について意識付けをする。
地域の高齢者	栄養, 運動, 社会参加をテーマにしたフレイル予防講座を実施する。

●年度末記載

今年度の達成状況	必要な業務改善



令和8年度 北柏第2地域包括支援センター 事業計画書 兼 実績報告書

●職員体制(令和8年4月1日現在)

常勤職員 : 保健師 1名, 看護師 1名, 社会福祉士 4名, 主任ケアマネジャー 1名(複数圏域合算)

非常勤職員: プランナー 3名, 事務員 1名

●所管圏域データ(令和7年10月1日現在)

所管圏域	人口 (人)	高齢者数 (人)	高齢化率 (%)	世帯数 (世帯)	高齢者 単身世帯数 (世帯)	高齢者のみ 世帯数 (世帯)	要支援者・ 事業対象者数 (人)	要介護 認定率 (%)	認知症者数 (人)
松葉地域	10,925	4,472	40.94	5,271	969	2,102	274	16.1	319
高田・松ヶ崎地域	20,938	5,057	24.16	9,722	1,310	2,361	274	18.3	504

●センター運営について

事業計画を共有し取組内容を確認, チームアプローチ推進, 全ての職員が研修を受けられる体制構築

●第9期いきいきプラン21における課題

団塊ジュニア世代が65歳以上となり高齢者が急増する一方, 生産年齢人口が急減する2040年への対応が必要とされている。

●前年度の事業評価の課題とその対応策

前年度の事業評価課題	課題への対応策
—	—

●前年度の重点活動

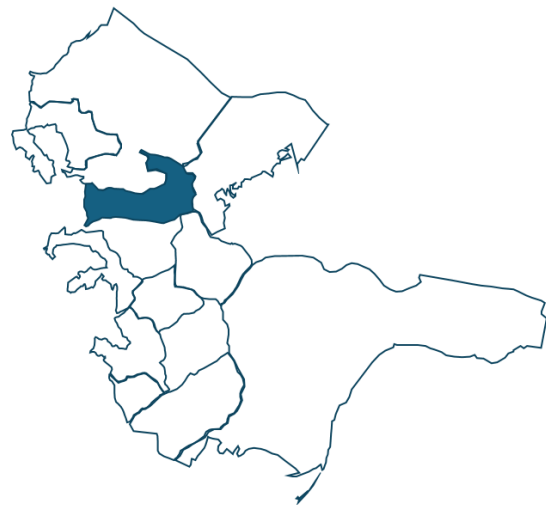
前年度の重点活動達成状況	必要な業務改善
—	—

1.重点活動（北柏第2）

地域課題 (=目標設定の根拠)	相談業務において、親族の協力が得られない一人暮らし高齢者の相談・支援が続いている。認知機能低下により金銭管理が困難になることや、終活・身元保証等、将来への準備不足が問題を複雑化させていることで、ケアマネジャーが従来の個別支援では対応が困難なケースが増加している。
目標	身寄りがない高齢者が認知症等のリスクを抱えても権利が護られて、住み慣れた地域で安心して生活が継続できるように、ケアマネジャーや地域住民の制度理解が促進できる。
対象	目標達成のための取組
地域住民 (特に一人暮らしや身寄りがない等で、将来的に権利擁護リスクが高い高齢者)	・ 地域の高齢者が自立している段階から、将来に備えた制度やサービス、社会資源を知り、活用していけるような普及啓発を行う。 ※ 柏市権利擁護センターや弁護士・司法書士等の専門職等と協力、連携して住民向け講座の開催(モラージュホール等)、近隣センターや集会所等での出前講座等を提供し、普及啓発に努める。
ケアマネジャー	・ 終活や成年後見制度をテーマとした地区別研修会や勉強会をケアマネジャー向けに開催する。 ・ ケアマネジャーが将来に備えた制度やサービス、社会資源を把握できるよう、当センター独自で作成した成年後見等の導入時の手引き・マニュアル、また社会資源マップを、ケアマネジャーに渡すだけでなく、それを活用できるような研修会や勉強会を企画する。

● 年度末記載

今年度の達成状況	必要な業務改善



令和8年度 柏西口地域包括支援センター 事業計画書 兼 実績報告書

●職員体制(令和8年4月1日現在)

常勤職員 : 保健師 1名 , 看護師 1名, 社会福祉士 3名, 主任介護支援専門員 1名
 非常勤職員: プランナー 5名, 事務員 1名

●所管圏域データ(令和7年10月1日現在)

所管圏域	人口 (人)	高齢者数 (人)	高齢化率 (%)	世帯数 (世帯)	高齢者 単身世帯数 (世帯)	高齢者のみ 世帯数 (世帯)	要支援者・ 事業対象者数 (人)	要介護 認定率 (%)	認知症者数 (人)
豊四季台地域	32,959	8,396	25.48	17,274	2,967	4,600	592	20.5	871

●センター運営について

事業計画を共有し取組内容を確認, チームアプローチ推進, 全ての職員が研修を受けられる体制構築

●第9期いきいきプラン21における課題

団塊ジュニア世代が65歳以上となり高齢者が急増する一方, 生産年齢人口が急減する2040年への対応が必要とされている。

●前年度の事業評価の課題とその対応策

前年度の事業評価課題	課題への対応策
—	—

●前年度の重点活動

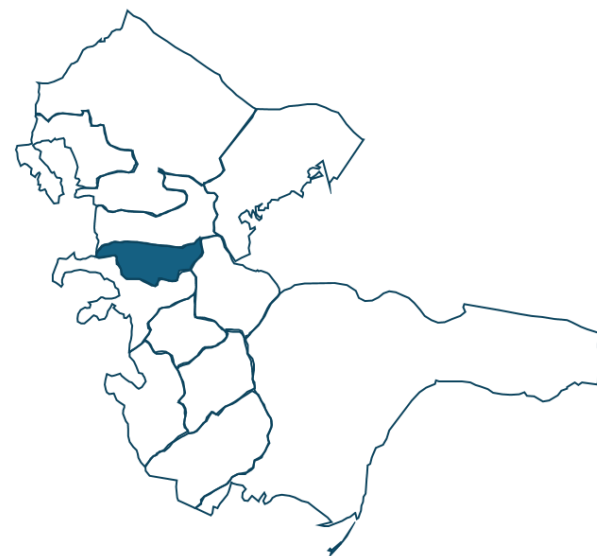
前年度の重点活動達成状況	必要な業務改善
—	—

1.重点活動(柏西口)

地域課題 (=目標設定の根拠)	認知症・閉じこもり・うつ割合が高い地域。複合的な課題を背景とした虐待疑い通報が5割に達している。 生活に支障が生じる複合課題が表面化しづらいことで、早期介入とタイムリーな関係機関へのつながりが難しい状況がある。
目標	複合課題を抱える世帯に対し早期にアプローチができるよう、関係機関との連携体制を構築する。
対象	目標達成のための取組
ケアマネジャー、 関係機関、 包括職員	複合課題をテーマとした事例検討会や地区別研修会、地域ケア個別会議を開催し、実務における連携体制の構築を図る。 関係者間での情報共有のため、カシワニネットを有用活用する。
地域住民	定期巡回訪問による潜在的なニーズの掘り起こしと、相談窓口として地域包括支援センターを周知する。 複合課題を取り上げたにしぼっぱ新聞を発行し、地域包括支援センターを相談窓口として周知する。
民生委員	民生委員定例会にて、障害の有無や年齢を問わない福祉の相談窓口としてあいネットを紹介する。

●年度末記載

今年度の達成状況	必要な業務改善



令和8年度 柏西口第2地域包括支援センター 事業計画書 兼 実績報告書

●職員体制(令和8年4月1日現在)

常勤職員 : 保健師 1名 , 社会福祉士 3 名, 主任介護支援専門員 1名
 非常勤職員: プランナー 4名, 事務員 1名

●所管圏域データ(令和7年10月1日現在)

所管圏域	人口 (人)	高齢者数 (人)	高齢化率 (%)	世帯数 (世帯)	高齢者 単身世帯数 (世帯)	高齢者のみ 世帯数 (世帯)	要支援者・ 事業対象者数 (人)	要介護 認定率 (%)	認知症者数 (人)
新富地域	24,549	5,308	21.63	11,910	1,492	2,592	321	18.2	484
旭町地域	12,331	2,495	20.24	6,583	739	1,247	143	17.8	238

●センター運営について

事業計画を共有し取組内容を確認, チームアプローチ推進, 全ての職員が研修を受けられる体制構築

●第9期いきいきプラン21における課題

団塊ジュニア世代が65歳以上となり高齢者が急増する一方, 生産年齢人口が急減する2040年への対応が必要とされている。

●前年度の事業評価の課題とその対応策

前年度の事業評価課題	課題への対応策
—	—

●前年度の重点活動

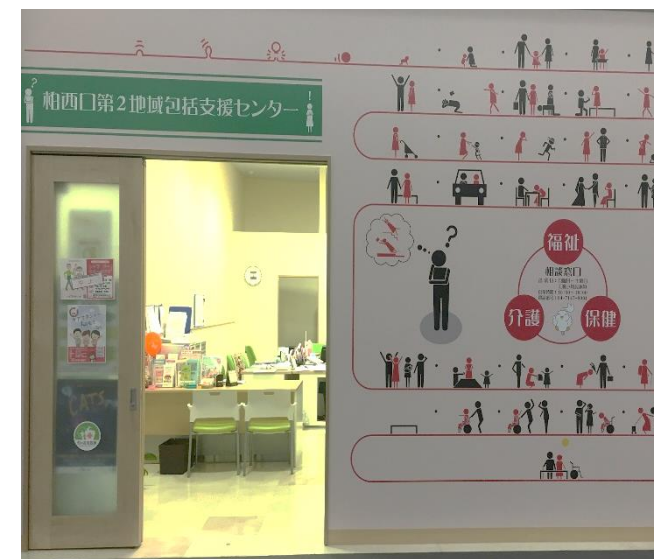
前年度の重点活動達成状況	必要な業務改善
—	—

1.重点活動(西口第2)

地域課題 (=目標設定の根拠)	事業対象者および要支援の認定者数が増加している。社会参加割合が低く、プレフレイル割合が高い。 地域の社会資源はあるが、住民の社会参加への取り組みとの連動が十分ではない。
目標	フレイル予防に取り組みたい住民と地域資源をつなげ、地域活動を促進する。
対象	目標達成のための取組
住民	・ ちょい足し活動応援プログラムを周知し、生活支援コーディネーターを通じて社会参加したい住民と地域資源をつなげる。 ・ 住民が活用しやすいように地域資源を把握・整理し、情報を提供する。 ・ 広報ツール(第2にしぼっぽ新聞)に活動内容を取り上げて、地域に回覧する。
地域活動者, ケアマネジャー	・ 地域ケア推進圏域会議のテーマとしてとりあげ、地域での活動状況を共有し、地域活動の充実について検討する。 ・ 社会参加の視点を共有し、地域活動の中に取り入れてもらう事で地域全体でフレイル予防に取り組む環境づくりを進める。

●年度末記載

今年度の達成状況	必要な業務改善



令和8年度 柏東口地域包括支援センター 事業計画書 兼 実績報告書

●職員体制(令和8年4月1日現在)

常勤職員 : 保健師 1名 , 看護師 1名, 社会福祉士 4名, 主任介護支援専門員 1名
 非常勤職員: プランナー 4名, 事務員 1名

●所管圏域データ(令和7年10月1日現在)

所管圏域	人口 (人)	高齢者数 (人)	高齢化率 (%)	世帯数 (世帯)	高齢者 単身世帯数 (世帯)	高齢者のみ 世帯数 (世帯)	要支援者・ 事業対象者数 (人)	要介護 認定率 (%)	認知症者数 (人)
柏中央地域	28,620	6,563	22.94	15,012	1,766	3,208	361	16.9	569
新田原地域	14,433	3,668	25.42	7,036	1,109	1,849	247	19.7	365

●センター運営について

事業計画を共有し取組内容を確認, チームアプローチ推進, 全ての職員が研修を受けられる体制構築

●第9期いきいきプラン21における課題

団塊ジュニア世代が65歳以上となり高齢者が急増する一方, 生産年齢人口が急減する2040年への対応が必要とされている。

●前年度の事業評価の課題とその対応策

前年度の事業評価課題	課題への対応策
—	—

●前年度の重点活動

前年度の重点活動達成状況	必要な業務改善
—	—

1.重点活動(柏東口)

地域課題 (=目標設定の根拠)	・住民のフレイル予防への意識が不十分 ・認知症の人とその家族を支える地域づくりが不十分 ・地域のつながりが希薄
目標	支援が必要な人を早期に発見し、地域や制度、サービスにつなげる。
対象	目標達成のための取組
地域住民	介護保険や他の制度でできる見守りや意思決定支援に関する講座を年1回開催する。 担当地区でフレイルチェック講座を開催する。 「東口+1通信」を年6回発行・配布し、住民の介護予防への意識づけ、関心を高める。
民生委員, サロン参加者	東口包括通信を年6回奇数月に発行し民生委員やサロン参加者に配布する。 地域のサロン・シニアクラブへ「介護予防お助け隊」の配布を継続し、介護予防啓発の機会を増やす。 管轄内サロンに年1回は顔を出し、活動状況の把握や講座の講師を務め、介護予防の啓発をする。
ケアマネジャー	地域の関係者との連携を強化するため、交流会を開催する。 ケアマネジャー向けの広報誌を作成し、地域の状況を情報提供する。

●年度末記載

今年度の達成状況	必要な業務改善



令和8年度 柏東口第2地域包括支援センター 事業計画書 兼 実績報告書

●職員体制(令和8年4月1日現在)

常勤職員 : 看護師 1名, 社会福祉士 2名, 主任介護支援専門員 2名
 非常勤職員: プランナー 2名, 事務員 1名

●所管圏域データ(令和7年10月1日現在)

所管圏域	人口 (人)	高齢者数 (人)	高齢化率 (%)	世帯数 (世帯)	高齢者 単身世帯数 (世帯)	高齢者のみ 世帯数 (世帯)	要支援者・ 事業対象者数 (人)	要介護 認定率 (%)	認知症者数 (人)
富里地域	20,594	4,264	20.71	10,722	1,307	2,170	243	16.9	368
永楽台地域	12,364	3,497	28.29	5,804	953	1,713	229	19.4	333

●センター運営について

事業計画を共有し取組内容を確認, チームアプローチ推進, 全ての職員が研修を受けられる体制構築

●第9期いきいきプラン21における課題

団塊ジュニア世代が65歳以上となり高齢者が急増する一方, 生産年齢人口が急減する2040年への対応が必要とされている。

●前年度の事業評価の課題とその対応策

前年度の事業評価課題	課題への対応策
—	—

●前年度の重点活動

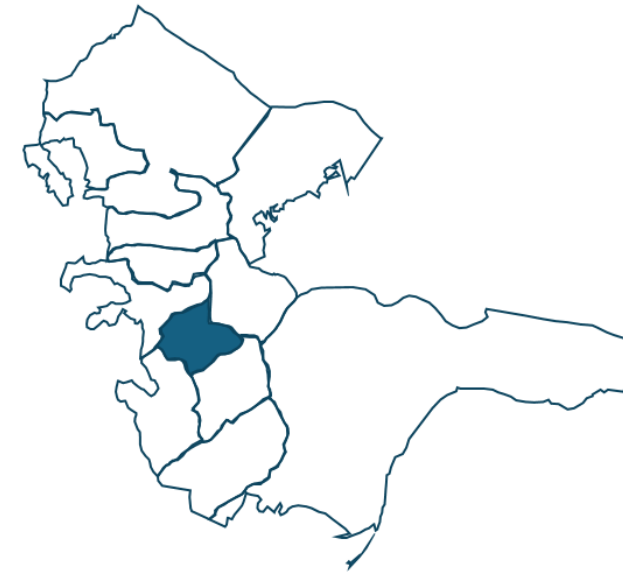
前年度の重点活動達成状況	必要な業務改善
—	—

1.重点活動(柏東口第2)

地域課題 (=目標設定の根拠)	JAGES2022では、特に前期高齢者において富里・永楽台両地域ともフレイルあり割合が高い。
目標	高齢者のフレイル予防の意識が高まる。
対象	目標達成のための取組
前期高齢者	・地域のお祭りの場などで、フレイル予防やワニFitについてのチラシ配布等を行い周知を行う。 ・自主グループ活動の場に顔を出し、フレイル予防の周知や包括主催の栄養講座等への参加を促す。 ・フレイル予防の記事を掲載した「包括かわら版」を、回覧板を通し圏域内の全世帯に配布する。 ・地域の薬局にフレイル予防のチラシやパンフレットを配架してもらうよう働きかける。
後期高齢者	・富里、永楽台地区でフレイルチェックを1回ずつ行う。前年の講座・応援プログラム参加者に手紙を郵送し参加を促す。 ・ハイリスク者や総合相談等を通じ把握した該当者に対しフレイル予防応援プログラムを周知し行う。 ・富里、永楽台地区で1回ずつ、栄養士と連携した講座を開催する。フレイルチェック参加者に手紙を郵送し参加を促す。 ・サロンにこまめに顔を出し、一年を通じてフレイル予防を呼びかける。

●年度末記載

今年度の達成状況	必要な業務改善



令和8年度 光ヶ丘地域包括支援センター 事業計画書 兼 実績報告書

●職員体制(令和8年4月1日現在)

常勤職員 : 保健師 2名, 社会福祉士 3名, 主任介護支援専門員 2名
 非常勤職員: プランナー 4名, 事務員 1名

●所管圏域データ(令和7年10月1日現在)

所管圏域	人口 (人)	高齢者数 (人)	高齢化率 (%)	世帯数 (世帯)	高齢者 単身世帯数 (世帯)	高齢者のみ 世帯数 (世帯)	要支援者・ 事業対象者数 (人)	要介護 認定率 (%)	認知症者数 (人)
光ヶ丘地域	31,540	8,730	27.68	15,335	2,507	4,384	550	18.9	848
酒井根地域	9,020	2,676	29.67	4,140	733	1,325	206	22.8	292

●センター運営について

事業計画を共有し取組内容を確認, チームアプローチ推進, 全ての職員が研修を受けられる体制構築

●第9期いきいきプラン21における課題

団塊ジュニア世代が65歳以上となり高齢者が急増する一方, 生産年齢人口が急減する2040年への対応が必要とされている。

●前年度の事業評価の課題とその対応策

前年度の事業評価課題	課題への対応策
—	—

●前年度の重点活動

前年度の重点活動達成状況	必要な業務改善
介護保険にとらわれない多様な社会資源につなげることを目標に, 生活支援第2層コーディネーターに10件紹介することとしていたが, 実質4件にとどまる。	対応の速度と円滑性を高め, 事業の波及範囲の拡大を図るため, 情報の集約ならびに地域の介護支援専門員らとの連携をさらに深める必要がある。

1.重点活動(光ヶ丘)

地域課題 (=目標設定の根拠)	介護保険の卒業者やフレイルハイリスク者などが自立した生活をするための行き先がなく多様性に欠ける。
目標	多様な社会資源(住民個人の力も含む)の把握・集約・活用によって重度化予防の推進ができる。
対象	目標達成のための取組
地域住民	「できる力に、もう一度ひかりを」プロジェクト(元気な自分を取り戻すための短期支援型プログラム)を利用し、重度化予防を図り、自立した生活を行う。
ケアマネジャー	「できる力に、もう一度ひかりを」プロジェクトへの協働により「リエイブルメント」(自立した生活を取り戻し維持することを支援する)を理解した上でケアマネジメントを実施する。

●年度末記載

今年度の達成状況	必要な業務改善



令和8年度 柏南部地域包括支援センター 事業計画書 兼 実績報告書

●職員体制(令和8年4月1日現在)

常勤職員 : 保健師 3名 , 看護師 1名, 社会福祉士 3名, 主任介護支援専門員 1名
 非常勤職員: プランナー 2名, 事務員 1名

●所管圏域データ(令和7年10月1日現在)

所管圏域	人口 (人)	高齢者数 (人)	高齢化率 (%)	世帯数 (世帯)	高齢者 単身世帯数 (世帯)	高齢者のみ 世帯数 (世帯)	要支援者・ 事業対象者数 (人)	要介護 認定率 (%)	認知症者数 (人)
南部地域	26,644	7,979	29.95	12,299	2,088	3,814	454	17.5	741
藤心地域	14,374	4,479	31.17	6,928	1,227	2,171	301	19.4	452

●センター運営について

事業計画を共有し取組内容を確認, チームアプローチ推進, 全ての職員が研修を受けられる体制構築

●第9期いきいきプラン21における課題

団塊ジュニア世代が65歳以上となり高齢者が急増する一方, 生産年齢人口が急減する2040年への対応が必要とされている。

●前年度の事業評価の課題とその対応策

前年度の事業評価課題	課題への対応策
—	—

●前年度の重点活動

前年度の重点活動達成状況	必要な業務改善
—	—

1.重点活動(柏南部)



地域課題 (=目標設定の根拠)	・後期高齢者の増加に伴い, サロンや通いの場, 趣味やサークル活動の担い手不足。 ・通いの場に参加したいと思う高齢者が多い一方で, 近くに参加できる団体が少ない。
目標	・南部地域 高齢者の活動できる場所や高齢者支援に協力的な企業等との意見交換を実施し, 高齢者の居場所について地元企業等ができることを活かす。加えて地元企業や関係団体同士の繋がりをつくる。 ・藤心地域 民生委員や関係団体等とのワークショップを実施し, 地域住民が地域資源を知ることができ, 団体同士の横の繋がりが構築できる。
対象	目標達成のための取組
南部・藤心 地域住民, 民生委員	サロンや老人会等への訪問時に参加者より, 高齢者が多く集う場所や高齢者への支援を積極的に行っている場所などについてヒアリングを実施する。
藤心地域住民, 地域関係団体	藤心地域にて, 民生委員やふるさと協議会, 関係機関等とのワークショップを実施する。 また集約した情報をもとに地域情報を可視化した地図情報の素案を作成する。 (随時更新できる形を検討していく)

●年度末記載

今年度の達成状況	必要な業務改善

令和8年度 柏南部第2地域包括支援センター 事業計画書 兼 実績報告書

●職員体制(令和8年4月1日現在)

常勤職員 : 社会福祉士 2名, 主任介護支援専門員 2名

非常勤職員: プランナー 2名, 事務員 1名

●所管圏域データ(令和7年10月1日現在)

所管圏域	人口 (人)	高齢者数 (人)	高齢化率 (%)	世帯数 (世帯)	高齢者 単身世帯数 (世帯)	高齢者のみ 世帯数 (世帯)	要支援者・ 事業対象者数 (人)	要介護 認定率 (%)	認知症者数 (人)
増尾地域	24,781	7,484	30.21	11,632	1,991	3,667	448	19.4	784

●センター運営について

事業計画を共有し取組内容を確認, チームアプローチ推進, 全ての職員が研修を受けられる体制構築

●第9期いきいきプラン21における課題

団塊ジュニア世代が65歳以上となり高齢者が急増する一方, 生産年齢人口が急減する2040年への対応が必要とされている。

●前年度の事業評価の課題とその対応策

前年度の事業評価課題	課題への対応策
—	—

●前年度の重点活動

前年度の重点活動達成状況	必要な業務改善
—	—

1.重点活動(南部第2)

地域課題 (=目標設定の根拠)	退職後の社会的役割の低下により, 自宅に閉じこもる傾向がある。認知症者数も増えている。(総合相談より)
目標	地域の様々なイベント(認知症啓発・フレイル予防活動等)への参加を促し, 生活支援体制整備事業の取り組みを行うことで孤立を防止する。
対象	目標達成のための取組
地域住民	総合相談の際に広報やチラシ等を活用し各種イベントを紹介する。口コミを通じてイベントを周知し, 参加者増加に努める。
地域住民, 民生委員	閉じこもり防止を目的として, 生活支援体制整備事業の視点からの支援を開始する。
地域住民, 民生委員	孤立化を防ぐことを目的として地域の見守り体制の枠組みを検討する。

●年度末記載

今年度の達成状況	必要な業務改善



令和8年度 沼南地域包括支援センター 事業計画書 兼 実績報告書

●職員体制(令和8年4月1日現在)

常勤職員 : 保健師 1名 , 看護師 2名, 社会福祉士 5名, 主任介護支援専門員 2名

非常勤職員: プランナー 4名, 事務員 1名

●所管圏域データ(令和7年10月1日現在)

所管圏域	人口 (人)	高齢者数 (人)	高齢化率 (%)	世帯数 (世帯)	高齢者 単身世帯数 (世帯)	高齢者のみ 世帯数 (世帯)	要支援者・ 事業対象者数 (人)	要介護 認定率 (%)	認知症者数 (人)
手賀地域	3,160	1,342	42.47	1,502	342	560	42	15.9	129
風早北部	27,016	7,834	29.0	12,767	2,140	3,890	362	15.6	609
風早南部	22,664	5,799	25.59	10,464	1,588	2,787	269	17.0	603

●センター運営について

事業計画を共有し取組内容を確認, チームアプローチ推進, 全ての職員が研修を受けられる体制構築

●第9期いきいきプラン21における課題

団塊ジュニア世代が65歳以上となり高齢者が急増する一方, 生産年齢人口が急減する2040年への対応が必要とされている。

●前年度の事業評価の課題とその対応策

前年度の事業評価課題	課題への対応策
—	—

●前年度の重点活動

前年度の重点活動達成状況	必要な業務改善
—	—

1.重点活動(沼南)



地域課題 (=目標設定の根拠)

沼南圏域は、高齢者のみの世帯(29.2%)の割合が柏市の平均値よりも高く、年々増加傾向にある。また、老後への漠然とした不安への相談も多く、身寄りがいないことや家族の協力を得られないことで課題の解決が困難になることも多い。そのため住民に対し広く「困りごとが大きくなる前の備え」について、啓発する必要がある。

目標

高齢や加齢に伴う身体及び生活課題の発生リスクを知り、自ら予防できる地域になる。

対象

目標達成のための取組

地域住民

① 介護予防への取り組みの啓発

「自分が元気であること」や「自立した生活を継続すること」に必要な介護予防への取り組みの啓発

- ・ アリオ柏(スマイルパーク)でのウォーキング講座の開催(年8回)
- ・ 健診会場において、無関心層に向けたフレイル予防の重要性の周知

② 「終活」の普及と啓発

どのような備えや心構えが必要か、家族と良い関係であることの重要性等の啓発

- ・ 終活に関するニーズの把握と終活講座を開催する。(年1回)

地域住民, 生活支援コーディネーター

③ 生活支援体制整備の推進

独り暮らしや高齢者世帯が多くても、地域で助け合える資源の発見と地域づくりの推進

- ・ 生活支援コーディネーターとの連携による重度化予防の事例の蓄積
- ・ 重度化予防の事例を、地域ケア会議で取り上げ、自立に向けた支援の実施

● 年度末記載

今年度の達成状況

必要な業務改善